

おすすめ 資材

静浜営農経済センターが
おすすめします!



テクテクネオ

◎価格
180cm×10m **1,728円** (税込)

- ◎特徴
- 透光性が良く、生育障害の防止に効果がある
 - 適度の保温性があり、生育促進に効果がある
 - 軽いので作業性がよく、耐久性に優れている

◎使用方法
畝や作物を直接覆うべた掛けや支柱を使いトンネル状に掛けても使用できます。作物によっては、収穫期間まで使用可能です。

詳しい使用法は、
最寄りの営農経済センターへ



冬季野菜の防寒対策

12月に入ると寒さが強まり、気温が下がるにつれて作物の生育は緩やかになります。寒さに比較的強い野菜でも凍るような寒さや季節風により、葉が傷んだり枯れてしまいます。また、春先にかけても温度不足のため、種をまいてもほとんどの野菜が発芽しません。防寒対策することで、野菜作りの楽しみを広げましょう。

防寒対策

①べた掛け

野菜を直接被覆する方法です。不織布を使用するので軽くて柔らかく、野菜に負担がかかりません。ハウレンソウやコマツナなど寒さに強い軟弱野菜に向いています。

シートの端は土に埋めたり、留め具を使って固定しましょう。また、シートの端は破れやすいので二重にすると良いです。資材もいらず手軽ですが、風などで野菜が擦れたり、保温性がやや劣ります。



②ビニールトンネル

支柱を使い、ビニールフィルムなどをトンネル状に被覆する方法で、エンドウやニンジン、カブなどに向いています。日中の温度上昇は格段に良くなり、さらに高い保温性が得られ、春植え果菜類の生育が促進でき、早採りにも有効です。べた掛けに比べると保温性に優れ、雨風をしっかり防ぎますが、資材代や手間がかかります。



Point! 日中の温度が上がりすぎることもあるので、裾を上げたり、フィルムに穴をあけるなどして換気を忘れずに!

③ネットトンネル

寒冷紗でトンネル状に覆います。作物の育ちはやや遅くなりますが、トンネルの上からもかん水ができ、温度が上がってもトンネル内が蒸れることはありません。

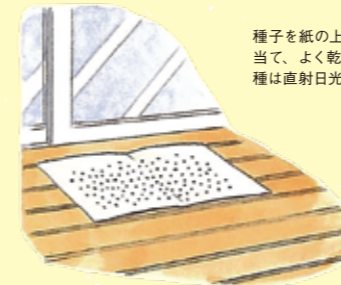


残った種子の上手な貯蔵法

種子の寿命を長持ちさせるには、「光」「水」「酸素」を遮断し、保管することが重要です。保管中でも種子は呼吸しているため、寿命が短くなっていきます。低温で保管することで呼吸量を抑えられるため、種子の発芽能力が維持できます。

種子の保存方法

①水分を含まないよう空気にさらし、乾燥させる



種子を紙の上のせて日に当て、よく乾かす。黒色の種は直射日光を避ける

②乾いた種子を封筒に入れ、口を2回折ってから乾燥剤と一緒に茶の空き缶等に入れる



種子を紙袋に入れて乾燥剤の上に置く

乾燥剤→

③外気が入らないようにテープで密閉し、冷蔵庫等の冷暗所で保管する



缶に蓋をし、テープを巻いて密封する

Point! 種子を取り出す際には、容器を室温に戻してから開閉しましょう。

おいがわ 今月の作物
はたけ日和

冬の管理

【種子の寿命】

種子には寿命(発芽能力を維持できる期間)があります。寿命の長さは種子の大きさによって異なり、同じ作物でも品種によって違いますが、日数が経過するにつれて発芽能力は低下していきます。

寿命	品目
1~2年	シソ、ネギ、タマネギ、ニンジン、ミツバ、ニラなど
2~3年	キャベツ、レタス、ハウレンソウ、エンドウ、トマト、ダイコン、ハクサイ など
3~4年	ナス、オクラ、スイカ、ソラマメ、キュウリ、カボチャ

種子を保存する時は、封筒に品目だけでなく、有効期限も記入しましょう。また、防寒資材での保温にも限界があります。夜間は外気温と同じくらい温度が低くなるので、注意が必要です。



静浜営農経済センター
石田湧己

